

## 用語の定義

(五十音順)

## 【あ行】

### ■維持管理

下水道施設を目的に適合するよう効率的に活用し、下水を排除するとともに、適正に処理し放流の水質を良好な状態に保つこと。主に管渠・終末処理場を保守点検し、必要に応じて補修する。

### ■雨水浸透施設

水資源として活用するための施設及びろ過して効率よく大地に浸透させる施設。

### ■雨水調整池

集中豪雨等の局地的な出水により、河川の流下能力を超過する可能性のある洪水を河川に入る前に一時的に溜める池。

### ■雨水流出抑制

降雨により、ある地点に到達する雨水流出量に対し、その途中で貯留や浸透施設等を設けることで、本来よりも低減を図る手法を示すこと。

### ■エネルギーの自立化

商用電力以外に、使用者が自身で発電施設等を設けてエネルギーを確保すること。

## 【か行】

### ■改築

施設の全部または一部の再建設あるいは取り替えを行うこと。

### ■確率年

水位、流量、降雨量等の水分量がある特定の値を超えるか、または、以下となるようなことが平均年的に見て T 年に 1 回の割合で起こると期待されるとき、この T 年を確率年（再現期間）という。

### ■計画降雨

雨水の整備を行うにあたり、対応する雨の大きさなど基準値の総称であり、確率年数や 1 時間当たりの雨量の大きさを示されている。

### ■下水道総合浸水対策計画

既存の計画降雨で上回る大きな雨を対象とし、浸水対策の目標である「生命保護」、「都市機能の確保」、「個人財産の保護」の観点より重点的に対策を行うべき地区において、施設整備と浸水リスクの情報や事前訓練等を取り入れ、都市浸水による被害の最小化を図ることを目的とした浸水対策計画。

### ■下水道台帳

公共用施設としての下水道の正しい管理を行い、使用者が施設を正しく把握し、実態が理解できるように整理し、老朽化対策や不測の事態に備えるデータとして管理する施設情報。

### ■下水道中期ビジョン

人口減少等の社会情勢の変化を踏まえた全体計画の見直しなどを踏まえつつ、今後概ね 10 年間で重点的に実施する具体的施策につき、地域住民等との対話のもとにとりまとめるものとして、国土交通省が各地方公共団体に策定を促しているもの。

## ■下水道マスタープラン

下水道における20～30年先の将来像を検討した計画書。今後の下水道のあり方が示されている。

## ■公共用水域

水質汚濁防止法によって定められる、公共利用のための水域や水路のことをいう。河川、湖沼、湾岸、沿岸海域、公共溝渠、かんがい用水路、その他公共の用に供される水域や水路。

## ■更新

改築のうち、標準耐用年数に達した施設の再建設あるいは取り替えを行うこと。

## ■洪水ハザードマップ

既往最大降雨等の豪雨を想定した時に、河川水位の上昇による溢水や堤防破堤により氾濫が想定される箇所を、浸水深別にマップに示し、周辺住民へ浸水リスクとしての情報提供を行い、被害の軽減を図ることを目的とする。

## ■高度処理

高度処理とは、汚水を通常の二次処理（汚水BOD,SSに対して90%程度の除去）よりも高い除去率で浄化したり、窒素やリンといった富栄養化の原因物質等を対象として確実に除去を行う処理を示す。

## ■コミュニティ・プラント

下水道区域外にある集落または団地などに設置された小規模な污水处理施設のこと。下水道に類似した施設で、複数の家庭から排出されるし尿と生活雑排水を処理し、地域で共同に機能する合併処理浄化槽ともいえる。

## 【さ行】

### ■事業平準化

持続可能な事業を展開するうえで、財政事情等に配慮して更新事業等を先送りあるいは前倒しして進め、各年の事業量を平均化する手法。

### ■集合処理

2つ以上の汚水発生源を集約して処理を行うこと。

### ■集中豪雨

狭い範囲に比較的短い時間で大量の雨が降る現象。

### ■終末処理場

一般家庭、商業施設、工場等から排出される汚水を河川等へ放流しても問題ないと判断されている水質まで浄化するための施設。

### ■浸水

集中豪雨等により家屋や事業所の床上・床下に雨水が流入すること。

### ■水質汚濁

公共用水域の水の状態が、工場や事業場からの産業活動、家庭での日常生活等の活動によって損なわれることや、その状態を指す。

## ■ソフト対策

下水道の機能を上回る事象が発生した時に、想定される被害を事前に情報として提供し、避難や事前準備・訓練等を促す手法。

## 【た行】

### ■耐震

建築構造物や土木構造物が地震に対して破壊や損傷しないようにすることを指す。下水道では重要施設とその他に区別され、それぞれ基準が異なる。

### ■単独公共下水道事業

単独の自治体が事業主体となって終末処理場や中継ポンプ場、管渠等を管理する公共下水道事業。

### ■長寿命化

一定期間を経過した施設の健全度調査を行い、部分的な改築・更新を実施することで標準的な耐用年数以上に延命化を図るための計画。ライフサイクルコストの最小化を図る目的がある。

### ■超過降雨

下水道が対象としてきた計画降雨を上回る強い降雨のことであり、浸水解消よりも軽減が主対策となる。

### ■中継ポンプ場

下水道の汚水や雨水を集水する過程において、低地部から地盤の高い地点へ送水するために必要な施設。

### ■透水性舗装

道路路面に降った雨水を舗装内の隙間から地中へ浸透する機能を持った舗装。

## 【な行】

### ■内水

河川へ流入する手前の下水道雨水管等を流れる水のこと。

### ■内水ハザードマップ

既往最大降雨等の豪雨を想定した時に、内水により氾濫が想定される箇所を、浸水深別にマップに示し、周辺住民へ浸水リスクとしての情報提供を行い、被害の軽減を図ることを目的とする。

## 【は行】

### ■排水性舗装

雨水を路面に滞水させることなく、舗装内部から排水施設に排水させるので、スリップ・沿道への水ハネ防止および走行音の低減に効果がある。

### ■ハード対策

必要な下水道の機能を確保するために整備する施設や行動を示す。

### ■BCP（業務継続計画）

地震・津波等の自然災害、大火災、テロ攻撃等の緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる業務の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における業務継続のための方法、手段等を取り決めておく計画。

#### ■不明水

下水道管の損傷個所から浸入する地下水、雨水等の総称。不明水が浸入することで、下水終末処理場の運営コストが上昇するだけでなく、単体量当たりの処理能力に影響をもたらす。

#### ■分流式

汚水と雨水を別々の管渠で収集するシステム。

### 【ま行】

#### ■マンホール

下水道管を適正に管理するために、一定区間毎に設置するスペース。

#### ■未利用資源

下水道の集水や処理の過程において、潜在的に有しているエネルギーや再利用水、緑農地還元、建設資材等として利活用できる資源。

### 【や行】

#### ■有収率

有収水量を給水量で除したもの。供給した配水量に対する料金徴収の対象となった水量の割合。なお、有収水量とは終末処理場で処理した全水量のうち下水道使用料対象となる水量のことであり、不明水を除いた水量を示す。

#### ■予防保全型維持管理

損傷が発生してから対応する対症療法型管理ではなく、損傷の推移を適切に予測し事故の発生を未然に防ぐ管理手法。

### 【ら行】

#### ■流出係数

降雨に対する水路、管渠等に流出する雨水量の比率。

#### ■老朽化

古くなり本来の機能を果たせなくなること。